

## 歌とともに築く、学級の成長物語

——学校祭を終えて——

教務主任 三國 大輔

歌声の響く学校。そこに居合わせるだけで幸せを感じます。先輩の歌声、取り組む姿勢に後輩が憧れを抱き、少しでも近付こうと努力する生徒たち。今年度は、合唱文化を継承したいという思いから、全校生徒で聴き合う場として、土曜日を合唱コンクール、そして、日曜日を保護者の皆様に向けた発表の場とし、二部構成の学校祭としました。

練習期間中から、生徒の素晴らしい歌声に感激しました。鳥肌の立つ歌声とはまさにこのことをいうのだと。しかし、合唱コンクールの魅力はそれだけではありません。「ああ、これなんだよなあ」という感慨にふける瞬間が何度もありました。

例えば、授業で教室に行くたび、合唱に関わる掲示物が更新されていくのが分かりました。一人一台端末を活用して作成した合唱新聞。「合唱コンクールまであと〇日」と書かれたカウントダウンカレンダーには、思い思いのイラストが描かれていました。背面黒板を活用している学級もありました。歌詞や具体目標を書いた模造紙。放課後の部活動がない日に残って作成している様子を目にしました。こうした盛り上がりはとても大切です。学級のために、仲間のために本気になれる姿に思いやりを感じます。2年生は合唱を披露することができませんでしたが、生徒たちが主体的に取り組んできた「過程」こそが大変尊いものだといえます。

合唱コンクール後の振り返りの様子にも、学級ごとの「味」がありました。結果を喜び合う学級がある一方で、「私たちの日常の弱さが出てしまった」と振り返る学級がありました。自分の思いを素直に語るその姿こそ、その学級の財産であるといつてよいでしょう。

合唱コンクールは、歌が上手になることだけを目指す行事ではありません。合唱を通した「最高の学級づくり」が最大の目標です。仲間のよさとともに、自分の学級のよさを感じたようです。同じ学級の仲間ですごす時間がよりよいものになるよう、生徒自身が協力し、高め合ってほしいと願います。私はこれまで、「本当の最優秀賞は3月に決まる」と生徒たちに伝えてきました。合唱コンクールをきっかけとして、それぞれの学級が更なる成長を遂げることを期待しています。



学校祭の実施にあたり、保護者の皆様には多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。特に、育友会の皆様には、ライブ配信や西條マルシェの実施、駐車場の誘導や会場整理等、様々な場面でご協力を賜りました。学校祭の取組に専念することができたのは皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。今後とも本校の教育活動に一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# 合唱コンクール結果

【第1学年】

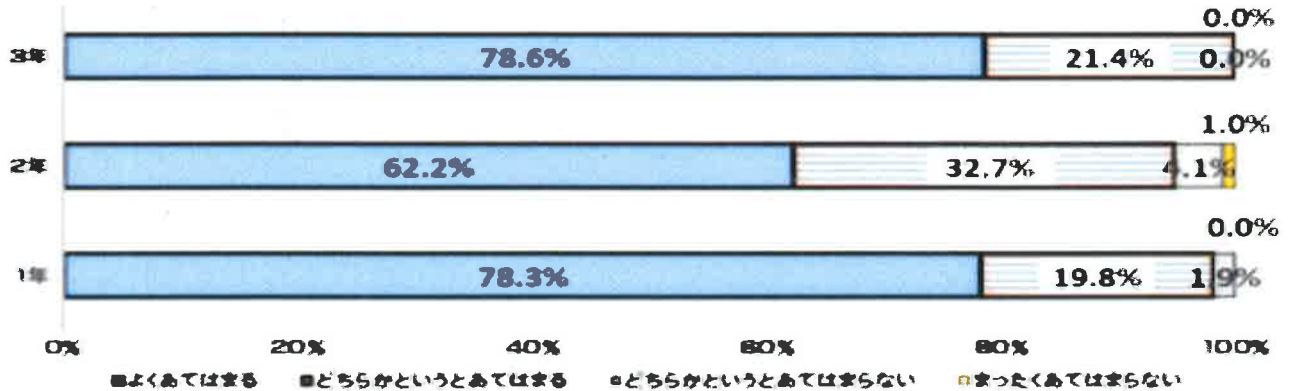
最優秀賞 1組  
指揮者賞 井上 拓己（2組）  
伴奏者賞 林原 祥花（2組）

【第3学年】

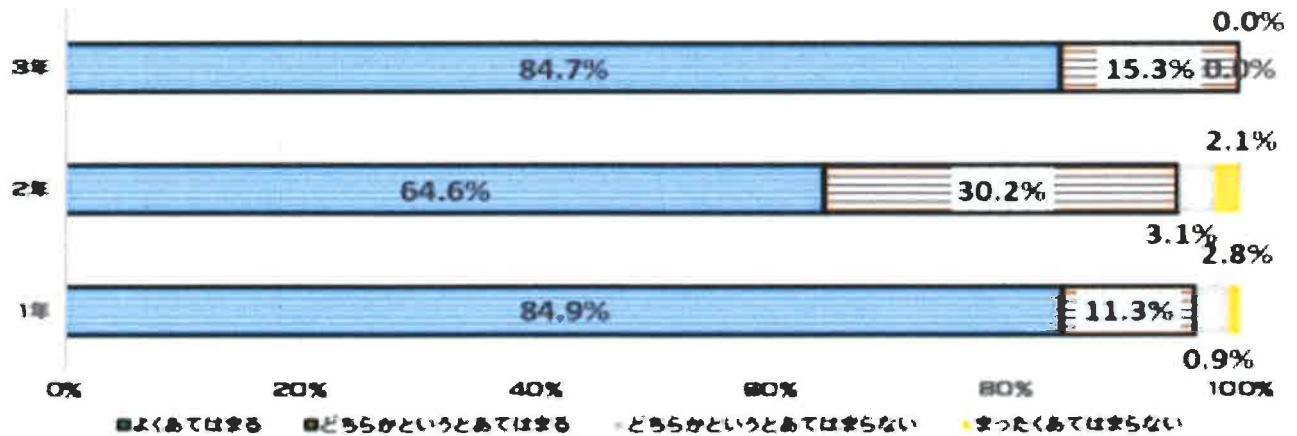
最優秀賞 3組  
指揮者賞 蔵 恭汰郎（2組）  
伴奏者賞 東海 愛実（1組）

## 学校祭生徒アンケートから

設問1 今年度の学校祭のテーマ「光輝燦然～咲かせよう 個性が集う大輪の華～」を意識して一生懸命取り組むことができましたか。



設問2 合唱の練習や係の活動を通して、最後までやり遂げてうれしいと感じることができましたか。



設問3 学校祭を通して、友達や先輩・後輩のよさや違いを発見することができましたか。

